

本庄駅北口周辺整備に向けた市民ワークショップ（第1回）

日 時：2019年12月15日（日）10:00～12:00

場 所：本庄市役所 6階大会議室

出席者：35名（5つのグループに分かれてグループワーク）

テーマ：本庄駅北口周辺の強みと弱みを見つけよう！

内容

1. 開会、市長あいさつ

2. 議事

- ・計画策定の概要
- ・自己紹介・アイスブレイク
- ・データ説明
- ・グループワーク、発表

3. 総括・閉会あいさつ

※閉会后、有志で「写真共有イベント」説明・デモを実施

会議風景



各グループ発表内容

A班

北口の立地の強みとして、利根川や伊勢崎市に近いという意見があった。また、旧中山道・十間道路といった幹線道路の充実という位置的なメリットや、ビバモールの開業・国道17号に近いエリアという点も上げられた。歴史的な視点としては、仲町郵便局や古いまちなみ、狭い路地があること、三交通り界限にはレトロな看板が残っていることが魅力的であり、歴史的な魅力を生かしていくほうが良いのではないか、という意見が出た。また、優秀な私立の学校が多いため、学生と家族と一緒に移住するような仕掛けがあっても良いのではないか、といった意見もあった。

駅前については、図面上に青シールが多く貼られており、飲みに行くような店が非常に多いということが上げられた。ピンク色が強み、ブルーは弱みとのことだが、私には全部ピンクにしか見えない。弱みは強みになる。ここにいる人たちは、これから一緒にまちを考えていくメンバーになる。「市が作る計画だから」ということではなく、市民目線から市の計画を立ち上げていくような考え方を持っていければいいと思う。



B班

学生からの目線として、駅前通りについて発表したい。

本庄駅は学生の利用がとても多いが、飲み屋が多く、飲み屋に行かない子どもは気軽に利用できる場所が少ない。大人は飲み屋で楽しく過ごせるが、そのような場所で、子どもは「勉強する」「友達と話す」「タピオカを飲む」ことができない。はにぼんプラザのような場所が多くあると良いと思った。

本庄駅からバスが出ているが、車通りが多く、北口ロータリーや横断歩道が危ないと思っている。また、駅前通りはシャッターがすごく多いが、

路地に入れば素敵な場所がたくさんあるため、シャッターの店舗はもったいないと感じた。

10代の、次世代の本庄市を支える人たちの意見を尊重することが大人の役割だと思う。シャッターの話についても、これからプラスに転じられるポテンシャルだと感じており、大人が支えてあげたいと思っている。



C班

本庄の良い点として、歴史的な建物が多いことを挙げた。本庄駅北口は様々な時代の建物があると考えている。具体的には蔵や、昭和・大正時代から建っている建物などがあり、様々な時代が混在する地域はなかなか珍しいのではないかと感じている。例えば、県南のニュータウンは新興住宅街が多く、建物が味気ないと感じており、そういう面で本庄市は非常に良いところだと思っている。

また、本庄祭りは北関東で最大の祭りと言われるくらい素晴らしいと思っているし、祭りの練習があると「秋が来たんだ」と感じられる。本庄市は人間味のある良いまちだと思う。

また、交通の利便性は高い。私は東京の大学に通っているが、本庄から東京まで約85kmあるが通える距離だ。とても通いやすく、自分の子どもにも本庄から都内や近くの大学へ通わせることができ、非常に素晴らしいと思う。課題として、道が狭いことが挙げられる。はにぼんプラザ前の銀座通りなどは、歩いていると車と接触しそうな場面があり、そういう部分が課題だ。また、駅前に商業施設が少なく、待ち合わせに使えるカフェ等がない。本庄の駅前は、本庄駅を利用するために来て、帰だけの場所になっている。本庄駅前に来て、買い物や遊んでから帰るという仕掛けができれば良い。

B班の発表にもあったが、学生数が多いことは強みであり、若い力がこれから必要だと思っている。高校生がまちづくりに参加できる機会として、イベントだけではなく常時入れるような仕組みが必要だと思う。福井県鯖江市には「JK課」があり、高校生がまちづくりに参加できる取組がある。このような仕組みを本庄市でも行ったほうが良いのではないかな。



D班

「道路が狭い」ということは、良い方にも悪い方にも転じるものだと思っている。本庄市は災害が少ないが故に、古民家などの古い建物が非常に多く残っている。駅北口・南口で見てみると、南口は北口よりも道路が広くなっており、発展している箇所が多いと思われるが、差別化を図る上で良い点だと思う。「道路が狭い」という理由で広くする必要はない。「狭い」と指摘された箇所は、学生が通学で通る道のため問題に挙がっていると思う。全ての道を広くする必要があるか、と言われたら、そうではなく、古民家を残していくような取組も必要だ。

また、意見が出た中では、一つひとつの店の名前が挙がることが多く、気に入っている店が多くあると思った。悪い点として、本庄駅前にはファストフード店やカフェが少ないことが挙げられた。学生が帰りに立ち寄る場所としてだけではなく、本庄駅付近で働く人が昼食を取る場所がないと思う。

パッと見ると青い付箋が多いが、D班は「良い」と「悪い」が対で出てきているものが多い。「古い住宅が多い」に対しては「それでも活用されているものが多い」。「駐車場が多い」は便利な点だが、それには「駐車場が分散されて不便」と悪い点が挙げられている。「飲食店・居酒屋が多い」に対し、「ファストフード店など少し立ち寄れる場所、学生が使える場所が少ない」ということも挙がっている。要は、良い点も悪い点も駅北側にはたくさんあると思っていて、これらを寄せる・統合するなどして魅力的になるのではないかと、ということがD班のまとめになる。



E班

良い点、悪い点と様々な意見が出た。そのなかでも「ビバモールの開業で便利になった」という意見はあったが、「買い物は便利だが大型車が入れない」「交通量が増えたことで道が狭い」という意見も出た。

「昔ながらの蔵や路地が残っていてきれい」という反面、「空き家が増えている」「老朽化しており危険箇所になっている」と対の意見も出ている。

居酒屋が多くおいしいお店はたくさんあるものの、その一方でランチができるお店や、高校生からは「スタバがほしい」「喫茶店がない」「映画館がほしい」という意見があり、歩いた際の目的地になる場所が少ないと感じた。国道17号沿いにはチェーン店が増えているが、駅北口で昼食が取れる場所や、ちょっとした時間を過ごす場所といった目的地が少なくなっていると思う。

全体的には路地や歴史的建造物があり、歩くのに適した場所ではあるが、お昼のために歩いていく目的地が少ないとの意見だった。

ピンク色が良い点、ブルーは悪い点だが、私にも全部ピンクにしか見えない。悪い点は裏を返せば強みだと思う。後2回あるワークショップを通して、市民みんなで強みを生かして本庄市の未来を考えていければと思っている。



講評

吉田市長

以前「本庄のまちは全体的にピンボケだ」と言われたことがある。「なるほど」と思ったのは、もう少し最適化を図るとピンボケはなくなると思ったからだ。先ほど「強みと弱みは表裏一体」という話が出たが、私もそう思う。表裏一体だがブラッシュアップが足りず、弱みがそのまま放置されているから強みになれない。どうやったら弱みを強みにできるか、という部分を個々にブラッシュアップしていく。

トリックアートや絵画展で、作品を近くから見ると一つひとつの点だが、実際には一枚の絵になっているというものを見たことがあると思う。その一つひとつが主張して最適化が図られていくと、全体像がはっきりとしてくるのではないかと、いつも感じている。本庄のまちも多分そうで、もっと磨き上げれば良くなってくる。今日の取組は、「インフラをきちんとしよう」ということを考えること狙いだが、インフラ整備するにあたっては、冒頭の説明にあったように、ただ整備するだけではダメで、「市民がどういうまちにしたいか」という思いや活動があって、それを下支えするものとしてインフラの有り様が決まってくる。個々をもっと磨き上げれば良くなってくる部分と、全体的なまちの有り様のなかで「ここにこういうものを入れてはどうか」という風にみなさんの気持ちが集約できれば、面白くなってくるのではないかと、思っている。

私自身も答えを持っていない。みなさんと一緒に考えて答えを見出し、導いて、最終的にインフラ整備を行う。インフラ整備をただけではダメで、それをどう活用していくか。そこまで出来て初めて、まちづくりの一つの作業だと思っている。



今井副市長

高校生から話があったが、「5時から」ではなく「5時まで」も大事だということがわかった。

本当に幅広い年齢層の方に集まっていただき、色々な意見があったことは非常に大事なことだと思っている。市長よりある程度話があったが、仕事として関わることも多いと思う。脳を柔らかくして取り組みたいという決意を表明したい。











